わたしのまちのPR（ピーアール）

八尾市編

八尾市は大阪府の中央部の東寄りに位置し、西は大阪市、北は東大阪市、南は大和川を境として松原、藤井寺の両市と、また東南部で柏原市に、東は生駒山地を境にして奈良県に接しています。昭和23年の市制施行当時の行政区域面積は18.99㎢でしたが、市域の拡張等によって、現在では41.71㎢になっています。

市内には、八尾空港を有し、近畿自動車道や国道170号（大阪外環状線）、国道25号の主要幹線道路が縦横に走っています。また、ＪＲ関西本線、近鉄大阪線、近鉄信貴線、大阪市営地下鉄谷町線が通り、今年３月にはＪＲおおさか東線が開通するなど、交通の便に恵まれています。

今年は、市制施行60周年を迎え、更なる発展が期待されています。

この八尾市の魅力や特色について、政策推進課長の平野さんにお話をお伺いしてきました。

本日はどうぞよろしくお願いします。
早速ですが、八尾市の歴史を教えてもらえませんか。

よろしくお願いします。

八尾市は昭和23年４月１日に、八尾町、龍華町、久宝寺村、大正村、西郡村が合併して、大阪府内で21番目の市として誕生しました。本市の西地域に広がる大阪平野では多くの鉄道路線が走るなど交通の便に恵まれ、早くから開発が進み良好な住環境を形成しています。一方で東地域では生駒山脈の豊かな緑があり、自然環境にも恵まれ、誕生当初の人口は約６万人でしたが、今では人口約27万人の都市へと発展してきました。

八尾市のお勧めのスポットを教えてもらえませんか。

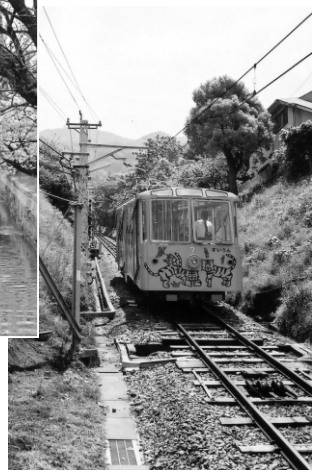
まずは、玉串川の桜並木がお勧めです。昭和40年ごろに周辺町会の人々が協力して植えた桜の苗木が成長し、春になると、川沿い約５㎞にわたって美しい花を咲かせます。夜にはライトアップもされて幻想的な姿を楽しめます。この桜並木は、大阪みどりの百選にも選定されています。

また、近畿日本鉄道の運営する西信貴ケーブルもお勧めです。近鉄信貴線の終点信貴山口駅で乗り換えることで乗車できます。ケーブルカーから望む景色は絶景の一言です。お近くにお立ち寄りの際は、是非一度お乗りください。

国史跡である心合寺山（しおんじやま）古墳は、約1,600年前に造られた全長約160m、高さ約13mで、中河内では最も大きな古墳です。古墳の墳丘は３つの平坦な段によって形作られた前方後円墳という形です。この平坦な

玉串川　桜並木

西信貴ケーブル



段には3,000本以上の埴輪が置かれていたと考えられています。円形の部分である後円部からは、粘土槨（ねんどかく）と呼ばれる粘土で包んだ木の棺が３基見つかりました。台形の部分である前方部には木の棺１基が直接埋めてありました。これらの埋葬施設からは、鳥の模様で飾られた鏡のほかに冑や鎧、大刀、勾玉などの首飾りが出土しています。

また、河内音頭の盆踊りで有名な常光寺（じょうこうじ）は奈良時代に聖武天皇の勅願によって当時の名僧行墓が創建したと伝えられるもので「八尾の地蔵さん」と呼ばれて、市民から親しまれています。この常光寺に伝わる「流し節・正調河内音頭」は、河内で最も古い音頭といわれており、日本の音風景100選にも選定されています。

心合寺山古墳

常光寺

八尾といえば、河内音頭が有名ですね。

はい。「エーエン、さては一座の、皆様へ」、「エンヤ、コーラセーエ、ドッコイセ」のお馴染みのフレーズで始まる「河内音頭」は、大阪を代表する盆踊り音頭で、「洋楽と浪花節が融合した語り芸」とも言われています。現代の河内音頭のルーツは、河内の北部（現交野市周辺）で歌われていた『交野節』をアレンジした歌亀節です。これに昭和20年代から浪曲の節が取り入れられ、全国的に知られるようになりました。八尾市内には、現代の河内音頭をはじめ、南部の太田地区に伝わる「ジャイナ音頭」のほか、「ヤンレー節」、「恩智音頭」など、30種類以上の伝承音頭が伝えられています。

この河内音頭の最も大きなイベントが、今年で第31回を数える八尾河内音頭まつりです。毎年８月に開催され、全国的に認知度が高く、２日間で市内外から約10万人もの来場者が訪れ、河内音頭一色に染まります。

八尾河内音頭まつり
パレード

河内音頭まつり
盆踊り

八尾の魅力として、伝統・文化を大切に受け継ぎ、発展させてきたのですね。

八尾の魅力といえば、おおさか東線が開通しましたね。

そうですね。地元としても、おおさか東線の開通は長年の念願でした。早期着工に向けて粘り強く運動を続け、平成８年に本市を含め沿線５市と大阪府、そして西日本旅客鉄道株式会社等51社の合計57団体の出資により設立した大阪外環状鉄道株式会社が、鉄道事業免許を取得することで、ようやく計画が前に進み始めました。今年の３月15日に一部区間（久宝寺駅から放出駅まで）が開通を迎え、地元関係者や多くの鉄道ファンが集まる中、ＪＲ久宝寺駅のホームで出発式を行いました。

平成24年には、現在未開通の放出から新大阪までの区間が開通予定となっています。ますます便利となる交通アクセスを活かして、人・モノ・経済・情報などの交流がこれまで以上に盛んになることを期待しています。

お話にありました久宝寺駅周辺地区では、再開発が進んでいますね。

かつての久宝寺駅には、上下線に挟まれるように

おおさか東線
出発式

ＪＲ久宝寺駅
周辺

竜華操車場が広がっており、上下線の乗換をするにも非常に不便な駅でした。昭和13年に設置されたこの竜華操車場は、広域的な物資輸送の拠点として栄えましたが、昭和59年に操車場としての役目を終え、新たな都市拠点の空間として機能更新が期待されていました。

平成９年に、本市と大阪府、都市基盤整備公団の３者が連携して、計画面積約24.6 haの土地区画整理事業を開始しました。事業の第一歩として、久宝寺駅の北側集約化と駅舎の橋上化工事を行い、利用者の利便性を向上させて生まれ変わりました。

久宝寺駅前再開発にあたっては、計画地区を、既存の工場の再配置を進めて快適な産業空間を目指す「産業業務地区」、水みらいセンターの整備とその上部空間を利用した諸施設の整備を進める「公益・文化地区」、複合型商業施設や文化・アミューズメント施設の立地する「商業複合地区」、快適で利便性の高い都市型住宅や地域医療の核となる医療施設を整備する「都市型居住地区」の４地区に区分して、都市基盤整備を進めています。

平成16年には、八尾市立病院が都市型居住地区に移転・開院するなど、八尾市の新たな顔としてまちづくりが進められています。

まちづくりといえば、市制60周年を契機に新たなまちづくりに取り組まれていますね。

はい。まず、市制施行60周年記念行事として「ＹＡＯ市民博」を開催しています。ＹＡＯ市民博は、市民実施事業として市民が企画立案したもので、年間を通じて地域や様々な分野の市民活動団体が、それぞれイベントなどを企画し実施しています。約100団体が参加し、本年12月までの間に計24回の催しが、毎月市内各所で開催されています。

これは、市制施行60周年を迎えるにあたって、行政から一方通行で市民に提供する記念事業ではなく、本当に市民が望んでいる記念事業を行わなければならないと考えていました。そこで、当イベントの主催団体でもある「八尾市市民活動支援ネットワークセンター『つどい』」が主催する「市民活動広がり交流会」において、「市制施行60周年について考えよう」というテーマで、多くの市民のみなさんに意見交換を行ってもらいました。その中で、市民一丸となってこれを盛り上げていこうという結論に達し、市民主体の記念事業として、イベントなどを実施してもらっています。

ＹＡＯ市民博オープニング

また、広くアイデアを募り、八尾の特産物や地名、歴史など魅力ある地域資源を活用して新名物を生み出そうと、「名物アイデアコンテスト」を開催しています。遊び心があり、八尾らしく独創的なアイデアを募っています。これをきっかけに、今まであまり知られていなかった八尾の地域資源を発信し、地域活性化につながればと思っています。

あと、市制施行60周年記念誌として、「響（ひびく）」を発行しました。記念誌「響」は、「わがまち再発見」をテーマに、歴史や文化、自然など広く本市の魅力を紹介しています。

これらの取組によって、本市の魅力を市民の皆さんと一緒に再確認するきっかけになればと思っています。

記念誌「響」

その他の、市民協働の取組を教えていただけますか。

「環境アニメイティッドやお」の取組があげられます。環境アニメイティッドやおは、市民・事業者・教育機関・行政のパートナーシップにより、環境保全に関する様々な活動に取り組んでおり、里山としての高安山保全活動としては、定期的に広葉樹やヒノキの間伐を行ったり、ニッポンバラタナゴ※保護池のヘドロを汲み上げたりしています。また、年に一度、大阪経済法科大学において環境フェスティバルを行っており、昨年は里山シンポジウムを開催し、里山を守るために大切なことをテーマにみんなで考えました。他に、広報誌「い～わ河内の風」の発行などによる広報活動など、様々な取組を行っています。

環境
フェスティバル

バラタナゴ観察会

その中の「ニッポンバラタナゴの保護を通じた八尾市の生物多様性保全事業」は、環境省が本年度より創設した「生物多様性保全推進支援事業」として採択されました。

これからも、市民・事業者・教育機関・行政の連携を深め、「環境先進都市」として積極的な取組を全国に発信できたらと思っています。

※ニッポンバラタナゴ：絶滅が危惧されている日本固有の在来魚。

市民協働・市民参画を基本に据えてまちづくりに取り組まれているんですね。

最後になりますが、今後のまちづくりについて教えていただけますか。

少子高齢化の進展や社会情勢の変化、特に地方自治体を取巻く厳しい経済状況の中で、さらに効率的で効果的な公共サービスを提供していく必要があります。そのためには、行政内部の効率化を積極的に進めるとともに、市民との協働をさらに推し進め、多岐にわたるきめ細やかな行政サービスの提供を実現していかなければなりません。

これを実現するために、本市では、平成19年度に「八尾市行財政改革プログラム」を策定しました。

この中で、「市民とともに歩む」、「市役所が変わる」、「公共サービスを変える」という３つの推進目標を掲げ、持続可能な行財政運営を確立し、新たな八尾のまちづくりを実現するため、市民とともに取り組んでいます。

今後も、市民とともに培ってきた貴重な経験を活かして、自らの地域のことは自らが考え都市づくりを行う「地域主権」を実現するとともに、市民自らが自治の担い手として市政に参画する市民主役の自律都市をめざして、市民の夢が広がる「元気で新しい八尾」づくりにこれからも精一杯取り組んでいきます。

「元気で新しい八尾」の実現に向けて一層躍進されることを期待しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。